

「超上流工程における要求分析への科学的アプローチ」研究会

2017年度第2回勉強会のご案内

2017年10月13日

情報システム学会同上研究会発

1. 日時：2017年11月13日（月）午後2時～午後5時

2. 場所：株式会社プライド会議室

■場所

株式会社プライド

東京都千代田五番町12番地1

番町会館3F

TEL：03-3239-5431

FAX：03-3239-5432

■アクセス

<https://www.naska.co.jp/corporate/access>

JR四ツ谷、JR市ヶ谷から共に徒歩5分

3階エレベータ前の株式会社インフォメーション・ディベロプメント社総合受付 左手奥「303会議室」です。

3. 発表

教えたことは分かっているが、どのように教えれば、分かってもらえるか？

これは、教育指導の現場に共通する長年の悩みである。専門用語で教授法の課題という。ソフトウェア技術を教える場合も、教授法の課題があるはずだが、教授法に目を向けず、やみくもに教え込もうとする指導者も多いのではないか。

だが良い教え方を目指して日々、工夫を積み重ねている指導者もいる。彼らは「そうか、わかった！」と分かる瞬間をどのように捉えているだろうか。そのために、どのような教えの道筋を用意しているか。彼らの声に耳を傾けてみたい。彼らの知恵は、超上流工程の要求分析の在り方に必ず示唆を与えてくれるだろう。

今回は、ソフトウェア実装技術の指導で定評がある二人の専門家をお招きして、ソフトウェア技術の指導現場の工夫についてお話を伺い、議論を楽しみます。

講師：後藤秀宣氏 株式会社カルテットコミュニケーションズ システム開発部

タイトル「システムおよびソフトウェアの設計スキルの獲得方法」

近年、ソフトウェア実装者コミュニティでは設計に関する小手先のテクニック論ばかりが取り上げられる傾向があり、他分野の設計に関する知見との横のつながりが希薄になっている。しかし、ソフトウェア設計の根本には、文字通り設計という活動の本質が残されており、その点は他分野における設計と同じである。このような視点に立った上で、ソフトウェア設計スキルの学び方や教え方はどうあるべきなのかを考察します。

講師：小川雄大氏 株式会社 Ancar CTO

タイトル「ソフトウェア技術を教える上での共感力と成長へのビジョン」

私自身プログラマーとしてキャリアをスタートし、環境の変化に連れて技術を学ぶ・教えることに対するスタンスに様々な変化があり、また周囲を見てもソフトウェア開発に携わる人々の多様化を感じております。

そうした中でソフトウェア技術を教えることの難しさについて、私の取り組みや自身の葛藤も含めて考えを整理した上でお話しさせていただきたいと思います。

参加費：無料

★研究会の後、懇親会を催します（費用は実費）。

研究会の参加希望の方は以下のメールアドレスにメールをください。

nakanishi-m@nagoya-ku.ac.jp 中西昌武（名古屋経済大学）宛て

以上